

中国都市部における農民出稼ぎ労働者家庭の 就学前児童の生存状態と適切な教育対策

北京市「四環遊戯グループ」の非正規教育の模索を中心として

Viability Status of Children under the Compulsory School-start Age in Farmer Migrant Workers' Families and Appropriate Educational Measures in China: Mainly Groping for Informal Education such as "Sihuan Play Group" in Beijing

原著：張 燕
ZHANG Yan

翻訳：劉 郷英
LIU Xiangying

要約

今日の中国社会において、都市に進出した農民出稼ぎ労働者とその子どもたちは依然として周辺の立場に置かれている。彼らの就学前教育のニーズは注目を浴びていない。本稿の目的は、「四環」市場という北京市にある農民出稼ぎ労働者の集住地域をサンプルとして、農民出稼ぎ労働者である露店商人の生活状況から着手し、出稼ぎ労働者家庭における就学前児童の活動場面を分析し、「四環遊戯グループ」の非正規教育モデルを検討することによって、出稼ぎ労働者家庭の就学前児童の教育問題を解決する道を探りたい。さらに、関連の政策を提案し、農民出稼ぎ労働者の生存状態の改善と調和の取れた社会の建設に努める。

キーワード：出稼ぎ労働者家庭の子ども 非正規教育 「四環遊戯グループ」

はじめに

「児童の権利に関する条約」では、子どもの生存、発達と保護される権利を明らかに述べている。子どもに関するすべての措置をとるに当たっては、子どもの最善の利益が考慮されることが打ち出されている。弱い立場にある子どもの権利に関心を寄せることは「条約」の重要な精神である。

今日の中国における教育の現状を総合的にみると、長年にわたって都市部と農村部の二元化された経済構造の影響によって、今日まで、教育は都市部に偏ってきた。農村部の教育は近年になって初めて政府から関心が寄せられ、関連の政策 例えば、「教科書代と雑費の免除、下宿生の生活費の補助」など が打ち出されるようになった。市場経済システムへの転換と都市化の進展に伴って、ますます多くの農民出稼ぎ労働者が都市に進出し、都市建設の重要

な力となっている。近年、都市部に在住している農民出稼ぎ労働者家庭の義務教育年齢段階の子どもに対して、政府は「移住先の地方公共団体の指導を中心に、移住先の公立学校への就学を中心に」などのような政策を打ち出したが、その政策が着実に実行されるまでにはまだ時間がかかるだろう。都市部に移動してきた農民出稼ぎ労働者は主として働き盛りの若者が多く、とりわけ 1990 年代以降家族単位での移動傾向が見られ、就学前段階にある低年齢の子どもが大多数を占めていたのである。しかし、農民出稼ぎ労働者家庭の子どもを対象とする就学前教育の問題は未だに注目されておらず、彼らの教育を受ける権利が保障されていない状態である。

都市部に移動してきた農民出稼ぎ労働者の大多数は、低所得の職業に従事しており、その 40% 以上が農産物市場で小売りの露店商人をしている。彼らの仕事は直接的に都市住民の日常生活に関わっているにもかかわらず、その就学前段階にある子どもたちは、ほったらかしの状態に置かれているのである。本研究は「四環総合市場」という北京市で、規模の大きい農民出稼ぎ労働者の集住地域をサンプルとして、「四環遊戯グループ」を中心に、市場の農民出稼ぎ労働者露店商人の生活実態を調査し、子どもたちの活動場面を分析し、さらに、こうした行動研究に基づいて、適切な教育対策を模索することを目的としている。

I 四環市場の農民出稼ぎ労働露店商人とその就学前児童の日常生活状態

2004 年の初め、ある偶然のきっかけで、われわれは四環農産物市場に入り込み、農民出稼ぎ労働露店商人を対象とした子育て支援活動を開始した。数年来の実践によって農民出稼ぎ労働者保護者との交流が深まり、われわれは彼らのことについて深く理解することができるようになった。市場の農民出稼ぎ労働露店商人の基本的な状況は次のような特徴をもっている。つまり、彼らは、出稼ぎ先の都市での滞在期間が長く、出身地の分布が広く、家族単位で都市に移動し、都市に滞在している家族の構成員は揃っていない。実際にこのような状況は現在の農民出稼ぎ労働者全体の状態を反映しているのである。

この集団に近づくにつれ、農民出稼ぎ労働露店商人の生活状態がますます明らかになった。こうした特定された現実生活の場は常に彼らのそばにいる就学前の子どもたちに影響を与えているのである。

1. 隔絶された生活環境

四環総合市場は、北京の旧市区の徳勝門近くに位置し、中には合計 700 軒ほどの店舗がある。店舗主のほとんどは河北省、河南省、山東省、四川省、安徽省、福建省、東北三省等の地方から来た農民出稼ぎ労働者であり、河北省と河南省から来た人が最も多い。販売品の種類は様々で、野菜・果物類から、お菓子類、煮物・揚げ物などの調理済みの食料品類、水産物類、日常用品類、洋服類まで何でも揃っている。市場で販売されている品物は値段が安いいため、周辺地域及びちょっと離れた地域に住んでいる中低所得層の住民によく利用されてい

る。農民出稼ぎ労働露店商人の多くは親戚や友人との関係で北京に来て、商売を始めたので、同郷出身の人同士の店舗が近くに集まっていることが多く、互いに地縁と業縁の関係で結ばれており、隣近所の店舗の同郷人が互いの交流対象となっている。ところで、この四環総合市場には相当数の就学前児童がいる。遊戯グループが設立されるまでは、同郷出身の子ども同士と一緒に遊ぶことが多かった。農民出稼ぎ労働露店商人は自分の集団内で活動したり、交流したりすることが多く、生活においては周辺地域の住民と物の売買関係以外に、ほとんど何の交流も持たないのである。上述のように、彼らは基本的に都市部に住んでいながらも、都市部の生活に受け入れられていないという隔絶された生活状態に置かれているのである。

2, 狭苦しい活動空間

四環市場で商売をしている農民出稼ぎ労働者はほとんど市場の周辺で部屋を借りて住んでいる。居住場所が集中していて、庭共有の別々の部屋に住んでいる子どもの家族同士もいる。家族全員が10平米足らずの一部屋で生活し、日常生活の全てがこの限られた空間で済ませるのである。部屋の大半はベッドに占められており、床には日常用品が散らかっている。子どもの家の中での活動範囲が限られていて、ベッドの上が、子どもの活動空間となっているのである。

市場では、並んでいる店舗の列の間に自然にできた狭い通路や、市場周辺の路地などは子どもたちの活動空間となっている。店舗にも路地にも無邪気な子どもの顔が見られる。彼らは忙しい両親のそばで、一人で遊んでいるか、隣を走っている車を全く気にせずに賑やかな人ごみの中を頻繁に行き交かっている。これが市場の子どもたちの生活状況である。

3, 不規則な生活時間

四環市場の子どもたちの保護者は商売をしながら生活しているため、毎日大半の時間を店舗で過ごすことが多い。家庭生活と仕事との区別はなく、彼らにとって家は寝食する場所に過ぎない。子どもの食事さえ店舗で済ませる場合もある。彼らは毎日常に12時間以上仕事をし、祝日も休日もほとんどない。一般的な状況として、母親は終日店番をし、父親は店番も商品の仕入れも担当している。父親の場合、毎日午後5、6時頃に北京市南部にある「新発地」という卸市場へ仕入れに行き、翌日の朝7、8時頃に店舗に戻ってくるのが通常である。その後、近くの料理屋に商品を届けに行く人もいれば、そのまま店舗で母親と一緒に商売をする人もいる。昼食の時間になると家に帰り、3 - 4時間の睡眠をとってから再び仕入れに行く。彼らは毎日このような生活を繰り返しているのである。保護者の生活時間は直接に子どもに影響している。子どもが朝5、6時頃に起こされて母親と一緒に店舗に出る場合もあれば、母親が店舗の準備を済ませて子どもを起こす場合もある。昼食の時間は商売の状況によって確定せず、午後1 - 2時の間が普通である。ほとんどの子どもは昼寝の習慣がなく、午後も依然として、あっちこっち走り回っているのである。夜7、8時頃、店舗が閉まってから母親が家に帰り夕食を作る。子どもの夕食は常に遅く、就寝はさらに遅い。

4, 貧しい文化環境

四環市場は北京市にある最大級の総合市場の一つで、治安面も衛生面も良好である。にもかかわらず、市場に入るとやはり混雑していて騒がしく感じられる。特ににぎやかな人ごみ、張り上げるような大声での交渉など、市場の中はしばしば苛立つような空気が漂っている。売買双方の言い合いや喧嘩などはよくある。四環総合市場は北京の旧市区に位置しており、近くの住民は社会の中低層が多い。市場の管理事務所の話によると、この市場にはかつてすりが多かったが、近年、治安が強化されたためだいぶ良くなったという。保護者たちは毎日ほとんど店舗で過ごしているため、子どもたちも市場にいる時間が最も長いわけである。また、保護者たちは生計を維持するために忙しく、子どもの教育に気を配る暇がないだけでなく、自分自身もほとんど楽しみがない。ごく少数の人はたまに新聞を読んだりテレビを見たりするが、情報の収集は非常に限られている。雨などの悪天候で商売が成り立たないときに、一緒に集まって麻雀などの賭けごとをする保護者もいる。上述のように、市場は一つの小さな社会であり、その環境は非常に複雑である。ここで生活している子どもたちは現実の社会におけるマイナス面の影響をより受けやすいのである。

5, ほったらかしの養育方式

四環市場の子どもたちは小学校に入学するまではほとんど就学前教育を受けたことがない。少数の子どもが出身地の田舎で幼稚園に入ったことはあるが、両親とともに北京に来てから、都市部の幼稚園の値段が高いため、彼らも幼稚園に入園することができない。父親は仕入れのため、一日の中で、子どもと顔を合わせるのがたったの数時間しかない。また、父親は空いた時間に急いで睡眠をとらなければならない。一方、母親も終日店舗で忙しく立ち回っているため、子どもと交流する時間はめったにない。子どもたちは毎日市場の中をうろつきながら遊んでいる。保護者からみれば、子どもが店舗にいなければ、商売に専念することができるから、好都合なことである。実はこうしたほったらかしの養育方式は露天商人の保護者たちにとってはやむをえない選択なのである。

6, 二重文化背景を下にした生活様式

四環市場で生活している子どもたちは二重の文化背景の下で二種類の生活様式が融合した特徴が見られる。彼らは「都会育ちの田舎者」として、農村育ちの子どもよりは都会のことをよく知っているが、行動様式は都会の子どもとは大きな違いを持っているのである。彼らは普段市場のなかを行き来しているため、行動量が大きい。市場という特定の環境や、ほったらかしの生活状態及び拘束されていない本性等の要因で、彼らには周辺との接触機会が多く、隠れた危険も大きいのである。例えば、市場の管理事務室の外に積んである砂や、店舗の横に止めてある自転車などはすべて彼らの遊びの道具である。市場の子どもたちは自己管理能力や自立性が強く、ほとんどの子どもは自分で遊戯グループに通い、終了後自分で家に帰り、トイレなども自分でするのである。市場には様々な商品が溢れ、保護者が子どもの面倒を見る暇がない中で、子どもたちはいち早く金銭や売買取引のことを知り、一人でお金でおやつやおもちゃ等を買うこともできるし、空き缶で換金することさえできる場で育ってい

るのであり、市場は彼らの生活の場であり遊びの場である。「都会の旅人」という辛い生存状態のため、保護者たちの育児はかなり不安定性を持っているため、相当数の子どもたちの生活の場は出身地の田舎と北京との間で何回も移り変わり、その身分も「移動」と「留守」の間で揺れ動いているのである。

7、「四環」の子どもたちに見られる独特な発達的特徴

四環市場の子どもたちは全体的に次のような特徴を持っている。行動量が大きく、あっちこっち走り回って遊ぶのが好きで、毎日高い所へ這い上がったたり、梯子に登ったりしている。彼らは、体が丈夫で活動的である。一方、社会性や言語面の発達が相対的に遅れている。

自分が生活すべき場所以外のところで生活しているため、周囲への警戒心が強く、子どもの間では常にトラブルが発生する。四環市場の子どもたちはしばしば「げんこつ」を問題解決の方法とし、攻撃的な行動が非常に多い。大人との交流が乏しく、他の子どもと交流する機会も限られているため、彼らは言葉で人とコミュニケーションをとるのが苦手である。こうした結果は保護者の幼児教育に関する認識のずれにも原因がある。生活環境と行動範囲が限られているため、子どもたちの言葉にはかなりきつい「なまり」を帯びている。家庭の生活状況が非常に苦しく、保護者の見守りが乏しいため、子どもたちは溢れる元気を無闇に走り回る方法で存分に吐き出しているのである。

保護者たちは生計に没頭し子どもの発達にあまり気を配る暇がない。さらに農村固有の生活様式の影響で、彼らは健全な生活様式や行動、習慣についてはあまり知らない。全体的にみると、四環市場の子どもたちは、「過保護で養育」されている都会の子どもに比べ、より自立的で自己管理能力が優れている。しかし、「ほったらかして養育」されているため、好ましくない行動と習慣を身に付いている。例えば、良好な飲食習慣を持っておらず、多くの子どもは朝ごはんを食べない。ある子どもは自分で肉まんを買って歩きながら食べ、ある子どもは朝ごはん代わりにアイスを食べるなど。また、決まった衛生習慣が欠如し、朝、起床してから顔も手も洗わず、毎日汚いまの顔で家から走り出す子どももいる。もうすぐ夏なのに、冬着を着ている子どもがいる一方、暑い日に上半身裸の子どももいる。多くの子どもはスリッパのままで外を走り回っている。

II 「四環」遊戯グループの非正規教育モデルの探求

「四環」の教育を実施するに当たり次のような方法を使った。われわれは教育実践をしながら実地調査を行い、市場の農民出稼ぎ労働露店商人の生活状態を理解し、彼らとの交流と相互作用を通して、農民出稼ぎ労働露店商人家庭の就学前児童の行動と発達状況を次第に把握することができた。われわれは彼らの現状を分析し、教育理念を持たせ、常に教育方法を調整して実践のやり方を改善した。つまり、われわれは行動と研究を結合させた方法を使って、市場の農民出稼ぎ労働露店商人及びその子どものニーズと特定の環境条件に相応しい非正規

教育モデルを模索することである。

市場の管理事務所と協議した結果、遊戯グループは管理事務所の敷地内にある空き部屋を借用することで合意した。子育て支援活動において、われわれは遊戯グループの趣旨を次のように制定した。遊戯グループは、子どもたちにとって遊びと健全に成長する樂園であること。遊戯グループは、保護者にとって、学習、分かち合いと助け合いの場所であること。遊戯グループは、ボランティアにとって、学校で学んだ専門知識を社会実践に活用し社会貢献のできる基地であること。「遊戯グループ」という名称を使用するのは、遊びこそ幼児の持っている主たる行動様式であることを強調し、これは社会的互助方式で実施している一種の非正規的教育形式であることを意味するからである。

「四環」は、農民出稼ぎ労働者家庭の就学前児童に相応しいカリキュラムシステムの構築を目指すと同時に、保護者に対する啓発指導も重視し、教育者としての保護者の責任意識を向上させることに努力しつつある。われわれは、先ず幼児の特徴及び生活状況に従って相対的に規則正しい日課表を作った。次に教育内容の面では、目的を持った教育を重視し、とりわけ育成教育と社会的コミュニケーション能力の発達を最も重要な課題として取り上げ、様々な方法による言葉の教育を強調し、十分な戸外活動を保証している。また安全と健康な生活様式もカリキュラムの中で繰り返し強調し、親に対する指導内容の一つとして実施している。

遊戯グループの活動に参加してから、市場の子どもたちには次のような変化が見られた。子どもたちは清潔になり、標準語が話せるようになり、トラブルが少なくなり、礼儀正しく行動できるようになった。保護者には大きな変化が見られるようになった。5年来、数多くの子どもと保護者が「四環遊戯グループ」の活動に参加することで利益を得ることができた。

「四環遊戯グループ」モデルのユニークさは、子どもに対する教育と親に対する指導が相互に浸透して一体化したところにある。

1、主として子どもを対象とした活動

遊戯グループが開始した初め頃には、毎日午前中2時間の遊びと教育活動が展開された。子どもたちは毎日飲み水とハンカチを持って、一人で遊戯グループに通った。半年後、午後にも2時間開くようになった。このようにして基本的に市場の就学前児童のニーズに満足し、保護者にも育児と保育サービスを提供することができた。

午前中にボランティアが指導する教育活動

毎日の午前中、主として就学前教育の専門知識を持っているボランティアが子どもたちに2時間の活動を実施している。「四環」の活動は正規の教育と違うため、教育対象である子どもたちの特徴をより周到に考慮する必要があり、教育の柔軟性が大いに求められる。また、「四環」のカリキュラムは既定のものではなく、教育活動の展開に従って次第に形成されたものである。この過程では、子ども、保護者、大学生のボランティアは共にカリキュラムの編成者としての役割を果たしている。実践過程においては、次第にモンテッソーリ方式による操作活動、ラジオ体操、総合的テーマ教育、戸外遊び及び10分間読書等のような内容と構

造によって編成された半日活动プログラムが形成された。

「四環」で実施されている教育活動は主として子どもを対象とするものであるが、同時に保護者への模範、見習い、指導及び現場訓練の役割も果たしている。最初、保護者たちは用心深く「珍しい物を観る」態度で、なかなか活動には参加しなかった。ある保護者は子どもを預けたら、すぐに店舗に戻り自分の商売を続けていた。われわれの趣旨と行動の意図は次第に保護者に理解されるようになり、保護者も商売の合間に活動に参加したり、玩具造り用の廃材を提供してくれたりするようになった。暇のある保護者は大学生のボランティアと一緒に活動を指導するようになった。保護者たちは活動のなかで、ボランティア専門家の教育方法を学び、やり方に気づき、教育の内容と方法を理解し、子どもの指導に協力できるようになった。時には教育活動の適切性について自分の意見を述べ、教師の補助的役割を果たす保護者もいる。

午後の「ママ先生」活動

2004年10月中旬から、保護者が午後先生になって子どもたちの活動を指導するという活動を開始した。この活動を「ママ先生」という名称で命名した。というのは、保護者に「先生」という役目を認識させ、この役目なりの要求に従って行動し、さらに役目に関する意識を強化させることを目指しているからである。子どもたちも「ママ先生」のことを認め、「ママ先生」の指示に従い、何かあれば教えてもらったり助けてもらったりしている。保護者たちは自らの育児経験やボランティア専門家から学んだ教育方法を午後の教育実践の中で応用することもできるようになった。その後、メーデーなどのような祝祭日や連休などに、遊戯グループの活動を完全に「ママ先生」に任せるようになった。

積極的に活動に参加した保護者たちは、子どもの教育に責任感を持つようになり、全体のことを考えて活動を指導し、それぞれの子どもの平等に対応できるようになっている。自分の母親が先生になったら、子どもも誇りに感じ、いっそうよく頑張りたくなる。保護者たちは当番で「ママ先生」を担当し、自分自身の経験を生かして、簡単でやりやすい活動を多く実施し、次第に教育に自信を持つようになっている。例えば、グループに分けて物を作ったり、お絵書きをしたり、絵本を読んだり、物語を語ったりするなど、適当に体を動かすような遊びも入れたりしている。「静的活動」と「動的活動」をできるだけ有効に結合するように工夫しているのである。

2. 保護者を中心とした活動

保護者に対する指導は遊戯グループにとって最も重要な仕事である。絶え間ない模索と実践を通して、最も有効的な指導方法と活動方法が形成された。

育児知識宣伝ピラと育児放送

ボランティアの先生たちは子どもたちの活動を指導したあと、毎日店舗へ行って保護者たちと意見交換をしたり、抜き刷り式家庭教育宣伝ピラを配ったりする。宣伝ピラの内容は、主として子どもたちに見られる普遍的な問題点や随時気付いた問題点について指導方法を保

護者に提案するものである。その日の活動内容や保護者に協力を求めるものなども書かれている。多くの保護者は毎日真剣に宣伝ビラを読み、いままで配られた宣伝ビラを全部保存していると言っている。また、ある保護者は、以前、子どもが朝食をとるか否かについてあまり重視しなかったが、宣伝ビラを読んだら、朝食をとらないと子どもの健康に悪いことを知り、現在朝食の量だけでなく、栄養など朝食の質にも気を配るようになったと言っている。宣伝ビラを通して、「四環」の教育は家庭へと広がりつつある。

また、市場の管理事務室が店舗の商人たちに知らせるために使っている放送設備も育児宣伝の実施に利用され、育児情報をいち早く有効的により多くの保護者に伝えることができるようになった。時には、子どもがアナウンサーになって、子どもの声で「四環」の教育内容を市場の隅々まで広げている。

保護者委員会と保護者会

遊戯グループでは、保護者を主要メンバーとし、ボランティアと管理事務室の職員等地域のメンバーを含む保護者委員会を設立し、定期的に保護者を招集して子どもの教育問題について討論し、経験を分かち合うようにしている。毎月開かれる保護者会も関係者にとっては情報を交換したり、育児訓練を行ったり、教育経験を分かち合ったり、自己教育や自治管理を行ったりするいい機会である。

全く面識もない多くの保護者たちは遊戯グループの活動で一緒に集まり、保護者会を通してよく知るようになり、しかも、自分の育児経験の交流を通してより親しくなり、親密な付き合いにより農民出稼ぎ労働者組織まで結成したほどである。

保護者リーダー制度

毎月、保護者委員会から代表者を選出し、その月の保護者リーダーとして、遊戯グループと保護者委員会の趣旨と精神を伝えたり宣伝したり、保護者が遊戯グループの当番を担当するように動員したり督促したりする。つまり、保護者リーダーは、保護者同士の連絡者であり、保護者とボランティア先生との関係の調整者である。例えば、保護者会や大きな活動を行う場合、保護者リーダーが事前に保護者たちに連絡し、保護者たちに指導して活動に参加したり意見や提案を伝えたりする。

3, 双方の役割を持つ活動

教育は複雑な社会实践として、様々な要素が総合的に入り組んでおり単独に区分され難いものである。「四環」の教育における多くの活動は子どもに対する教育と保護者に対する影響という二重の機能を兼ねており、一活動が二機能をもっているのである。

遠足、祝祭行事など親子が共同で参加する大型活動

遠足や祝祭行事などのような大きな活動は、常に親子が共同で参加する活動である。それは遊戯グループのカリキュラムの一部であると同時に、ボランティアと保護者の力を発揮させ、保護者同士の交流や就学前教育に関する保護者の認識を深め、組織の団結力を強化させる役割も持っているものである。例えば、保護者が子どもを連れて遠足に行ったり、お正月

に親子で一緒に遊園会でお祝いをしたりするなどである。「四環」の子どもたちは毎日保護者のそばで過ごしているように見えるが、実際に保護者に注目されているわけではない。親子間の交流も非常に限られている。定期的にごうした活動を実施することによって、保護者は自分の子どものことをより理解するようになり、親子の感情も深まり、遊戯活動が子どもの発達にとっての意義を理解するようになった。数年来、北京師範大学のキャンパス、玉淵潭動物園、天安門を観光し、親子運動会や折り紙試合大会、物語り試合大会等の活動も実施した。

「四環読書会」プログラム

保護者に早期読書の意識を持たせ、子どもに読書環境を作るために、われわれは読書の趣味を育成し、子どもの読書習慣を養成し、言葉による表現能力を高め、親子関係を深めることを目的とする一連の総合的活動を実施している。この活動は、カリキュラムの一部であり、保護者に対する指導の重要な部分でもある。読書活動は他の活動に比べてより実施しやすく、教材も安くて、手に入れやすい。保護者が読書活動を通して重要な役割として非正規の教育に参加することができる。読書はまた保護者が子どもの教育への参加に相応しい活動である。現在、読書会活動はすでに留守家庭児童の家庭にも広がっている。

読書会活動の形式は多種多様である。遊戯グループで毎日実施されている読書活動 例えば、物語を語る、テープレコーダで物語を聴く、劇で物語を演じる、子ども自身による読書と物語を語る等。家庭のなかで毎晩実施している親子の10分間読書。定期的に図書館で実施している集団読書活動。保護者に対する読書指導。図書の貸し出しや物語を語る大会等。

廃材や旧物で玩具作り

これは毎週一回実施する定例の活動であり、必要に応じて、簡単な玩具や操作活動に使う教材を作って、子どもの興味関心を高めることができるので、「四環」のカリキュラムの一部となっているのである。

玩具作りの一番重要な目的は、保護者たちに教育資源は至る所に存在し、質の高い教育は必ずしも高い投資が必要とは限らないことを意識させることにある。身近にある日常生活用品、廃材や旧物等で子どもたちに玩具を作り、リサイクルすることで、子どもたちの活動内容を豊かにすることができる。玩具作りはまた保護者が「四環」の活動に参加する積極性を呼び起こし、彼らが身につけている郷土の資源を発掘することもできる。この活動を家庭まで広げることで、親子の感情を深めることもできる。玩具作りはまた保護者同士の相互学習と経験の分かち合いを促すこともできる。保護者は玩具を作ることで、次第に遊戯グループの教育理念も理解し認めるようになってきているのである。

以上の活動を通して、子どもたちは行動範囲が拡大し、視野を広げ、北京を知るようになった。一方、保護者 農民出稼ぎ労働露天商人の文化・娯楽生活も豊かになっている。最も重要なのはこれらの活動が保護者たちの教育者としての責任感を強め、育児の自信と能力を高めるようになったことである。

III 非正規教育の価値に関する考察と関連政策についての提案

1, 非正規教育の意義

非正規の就学前教育は中国における現行の教育体制以外の教育である。非正規の就学前教育は地域の生活と密接に関連しているが、生活の中にある非正式の教育とも違い、目的を持って、計画的組織的に特定の子どもとその地域の構成員に相応しい内容を選択する教育のことである。非正規の就学前教育は教育的ニーズによって方向づけられ、その教育形式は教育的ニーズの内容によって決められ、画一的、固定的、標準的な教育ではない。

学校段階の教育に対して、幼児教育の重要な特徴の一つは、家庭と地域と密接に関連していることである。1989年、中国国務院、国家教育委員会が中国における幼児教育事業の発展方針について次のように明確に述べている。「社会における各方面の力を動員して、それを頼りにして、様々なルートで、様々な形式で幼児教育事業を発展させる。」また、1997年、中国国家教育委員会（現在の教育部）が「全国の幼児教育事業『九五』（第9回の五年計画）発展目標に関する実施意見」を發布し、幼児教育事業の発展についてさらに次のように指摘している。「幼児教育事業の発展方向は、地域社会を頼りに、その地域の経済と発展に応じた正規と非正規の教育が相互に結合されている組織形式を設立すべきである」

地域すなわち民間には、幼児教育を発展させる巨大な力と資源が埋蔵されており、保護者と地域住民は幼児教育の受益者であり、教育を実施する主体者でもある。教育のニーズは客観的に存在しており、重要なのは、民衆自身の要求と権利意識を喚起し、民間による教育運営の積極性を呼び起こし、地域に根ざして、ボトム・アップ方式で地域住民のニーズに適合した教育とサービスを実施することである。四環遊戯グループの実践は次のことを物語っている。非正規の形式で出稼ぎ労働者の居住地において、その子どもたちに幼児教育を提供することは実効性のあることであり、こうしたやり方は、現行の就学前教育体制以外にももう一つの選択肢を提供している。

非正規の教育形式は次のような独特の価値と優越性を持っている。まず、非正規教育は地域教育として地域性があり、需要と供給の関係が密接にあり、目的を持って柔軟に地域のニーズに応じた教育を発展させることができる。また、非正規教育は地域の環境と条件に基づいて、地域の事情に合わせて始めており、コストが低く効果と利益が高いものである。さらに、非正規教育は開放的なものであり、地域と密接に融合し、地域住民と一緒に参与する機会が多い。

農民出稼ぎ労働者は都市に進出して、都会の人とも農村の人とも異なる特殊な集団として、今後、相当長期間存在し、彼らが都市に馴染むまでに相当時間がかかるだろうと考えられる。従って、彼らの教育ニーズ及びその子どもの就学前教育の問題を解決するには、異なる構想と対策が必要なのである。調査によれば、現在、都市の各住宅地域に住民が自主的に設立した家庭託児所等のような非正規の教育機関が数多く存在している。こうした異なる形式によ

る非正規の教育機関は、農民出稼ぎ労働者の保育ニーズと急速な都市化の発展によってもたらされた就学前教育のニーズをかなり緩和してくれている。

非正規教育は体制外の教育として、地域の発展と密接に関連しており、需要と供給関係から見れば異なるニーズに適合し、多様な選択肢を提供してあげることができる。非正規教育は、教育発展の条件、費用、投入を教育の目的効果と結びつけて探索するものであり、教育の受益者の範囲の拡大や、教育の質的向上及び社会における多方面の資源の利用、さらに全社会におけるボランティアの奉仕精神の提唱と都市と農村との融合の推進にとって大きな意義があり、生命力のあるものである。児童及びその家庭は民間の力で設立した「壁のない幼稚園」としての「四環遊戯グループ」からそれらの力を享受しており、その数は今までのすでに400人以上に達している。

2、地域における非正規教育の発展は適切な政策環境が必要

都市部における出稼ぎ労働者家庭の子どもたちは社会的な弱者として、その生存状況、発達状態及び教育的ニーズは当然もっと多く注目されるべきである。これによって都市部と農村部の格差を縮小させ、社会の公平が擁護される。

マクロな教育観から考えて、出稼ぎ労働者家庭の子どもの教育ニーズに関心を寄せ、幼児教育発展の正しい方向性と構想を確立させる。

政府および地方公共団体は、教育発展を社会のマクロな背景即ち今日の改革開放によりもたらされた都市化過程の加速化という背景において問題を考えなければならない。同時に、出稼ぎ労働者家庭の子ども等のような社会的弱者の発展と彼らの教育を受ける権利と合わせて、非正規教育の価値と実効性を検討し、中国の幼児教育事業の発展における非正規教育の当然の位置づけを明らかにしなければならない。

社会の力による学校作りを積極的に扶助する政策環境を創設し、政府と民間の力関係を調整し、職能を転換させる。

現代社会の発展の特徴と方向は「小政府、大社会」である。喜ばしいことには、現政府は科学的な発展観と調和の取れた社会を創建する方針を打ち出し、都市と農村との調和、人と環境との調和、人と人との関係の調和、政府の権力を抑制し民間の力を発揮させ、政府と民間の両者間のバランスを調整させ、さらに全社会において社会的公平と教育的公平を実現させる。これは調和の取れた社会を建設する方針の本意であると考えられる。

「四環遊戯グループ」で模索しているのは「ボトム・アップ」式の非正規の就学前教育の課題であり、総合的な課題である。子どもの教育から言えば、それは学校運営形式に関する模索である。保護者間の互助組織形成の推進から言えば、それは民間団体の発生と育成に関連している。中国では、非正規の教育組織に関しても、民間団体に関しても、制度が立ち遅れているのが現状である。

経済システムの転換期という新しい情勢において、地方公共団体及び関連部門では、各自の位置づけや役割を明確にし、法律に基づいて運営し、社会管理や公共サービスの機能を強

化させ、中央政府が制定した政策や法規をまじめに徹底的に執行し、対応の規範や措置を健全化させ、自分自身のやり方を規範化させることは緊急に求められている課題である。

市場原理を尊重し、適切な管理方法を模索し、関連政策と制度の制定を強化する。

非正規教育は正規教育に比べて、教育目標、内容及び形式で目的性がより強い。それは社会大衆の教育への様々なニーズを満たすことを自分の役目とするものであるため、経済と社会の発展とはより直接的、より密接に関連しており、市場で検証されることができるのである。

非正規教育に対する管理は、地方公共団体或は管理者の「当て推量」の判定基準 即ち正規の幼稚園の統一基準で、画一的に、行政指令の方法で干渉し、簡単に制限したり取り締まったりしてはいけない。人間を第一に考え、とりわけ弱い立場にある農民出稼ぎ労働者家庭の子どもの教育ニーズと平等に教育を受ける権利を判断の根拠とし、その基準としなければならない。また、市場原理を尊重し、国の事情と国民の意思を尊重し、庶民の選択権を尊重しなければならない。現在多く見られている民間の力で設立された様々な非正規教育形式に対して、事実に基づいて、真実を求める態度で、問題を検討し、実情に応じてそれを導き、政策上の支援を提供しなければならない。

多部門連携の運行システムを建設し、非正規教育に対する地域社会の管理機能とサービス機能を模索する。

地方公共団体が統一して計画案を作成したり調和したりすることは、多部門連携の管理体制と運行システムを作る上で極めて重要である。多部門連携の管理体制を作り、同じ問題に対して各部門が共同で検討し対策を考えるというようなチームワーク制度を導入することは非常に良い方法だと考えられる。現在、各部門はそれぞれ勝手に振る舞い、お互いに調和する体制ができていない。そのため、管理上では行き届かないことが生じている。例えば、北京市にある出稼ぎ労働者家庭の就学前児童の正確な数は未だに把握できていない。計画出産、安全、ボランティア等のような各部門の責任と関わる総合的な問題は一つの部門の力だけでは解決することができず、多部門の連携による総合的管理が必要である。多部門連携の管理体制を作れば、また民間にある非正規教育などの公益組織に対する審査手続きを簡略化することもできる。同時に、農民出稼ぎ労働者に対して、情報提供などももっと有効なサービス提供をすることができる。

非正規教育に対する管理を地域社会の発展プランに組み込んで考えなければならない。地域社会は人々の生活と密接な関係にあり、都市管理システムは「政府 職場 職員」モデルから「政府 地域社会 住民」モデルへ変わりつつある。地域の下部管理機構と地域内の大衆組織 区役所出張所と住民委員会は、地域の状況と住民のニーズを把握しやすい。例えば、地域内の出稼ぎ労働者とその就学前児童のおおよその数を把握し、実際の状況に基づいて企画を立てる。同時に多方面の力と資源を調整して、情報ルートを提供したり、ボランティアを募集したりするなど、需要と供給との結合、教育と地域発展との同調を実現させる。今日

の市場経済のことを考えて、地域教育に対する管理では、行政部門と地域との相互関係と連係を模索する必要もある。今までの経験と方法を参考にして、政策の連続性と総合力の形成を保証することは重要であると考えられる。

「四環遊戯グループ」の5年間の経験から、地域における非正規教育の推進は農民出稼ぎ労働者の教育ニーズの喚起にたいへん有益であることが示唆されている。多くの都市住民が彼らの生活状態に関心を寄せ、援助の手も伸ばしてくれている。農民出稼ぎ労働者は次第に閉鎖的な隔離状態から脱出し、新しい市民となりつつある。その生活様式と資質にも大きな変貌が見られるようになった。「四環」の模索は、同じような地域のお手本となることができる。2009年は「児童の権利に関する条約」発布の20周年である。社会における各方面の共同の努力で、農民出稼ぎ労働者家庭の就学前児童の教育問題を解決し、農民出稼ぎ労働者と都市住民との社会的融合及び都市と農村との調和は必ず実現できると確信している。

参考文献

杜越・汪利兵等主編『城市流動人口子女の基礎教育』（都市部における出稼ぎ労働者子女の基礎教育）浙江大学出版社 2004年12月

前掲書

張燕・呂萍「流動人口群体育児状況調査及相關的政策建議 以四環市場為例」（出稼ぎ労働者集団の育児状況に関する調査と関連政策に関する提案 四環市場の事例を中心として）CRN（中国語版）2007年12月

張燕「这里的孩子擁有快樂」（この子どもたちは愉快だよ！）『幼兒教育』2005年（4）

安春芳「在讀書行動中實現家長參與 以四環遊戯小組為例」（讀書活動を通して保護者の教育参加を実現させる 四環遊戯グループの事例を中心として）北京師範大学教育修士論文 2005年

張燕「非正規教育探析」（非正規教育に関する考察）『幼兒教育』2007年（7 / 8）

張燕「社区非正規教育 解決流動兒童学前教育問題的？ 一種思路」（地域における非正規教育 出稼ぎ労働者家庭の子ども就学前教育の問題を解決するもう一つの構想）『学前教育』2006年（1）

王莹「從对北京市三所民非正規托幼機構的調查看如何為其發展創設適宜的外部環境」（民營保育・幼兒教育機構の發展に相応しい外部環境の創設方法に関する検討 北京市での調査を踏まえて）北京師範大学学士論文 2005年

張燕執筆『北京市幼兒教育機構構成及其办学理念的調查報告』（北京市の幼兒教育機構の構成とその運営理念に関する調査報告）北京市教育規畫委託課題 2006年7月

「北京排査学校安全隱患，閉閑17所不具備办学条件的幼兒園」（北京で学校の隠れた危険を取り除く，学校運営条件不整備の幼兒園17園閉鎖）中国教育報2004年12月30日付

訳者注

著者の張燕氏は、中国北京師範大学教育学部の教授であり、長年中国の都市部における就学前教育改革の実践と研究の第一線で活躍している学者である。本論文は、2009年11月28日に、日人間福祉学会と中部学院大学及び中部学院大学短期大学部が共同主催した「人間福祉学会2009 in ぎふ第10回記念大会：豊かな参加、豊かな帰属～人間福祉の明日～」における国際・リレートーク「貧困と子どもの人

原著：張燕 翻訳：劉 郷英

権」で発表した内容を踏まえて加筆・修正したものである。

なお、本翻訳の日本語表現の校正にあたり、名古屋経営短期大学子ども学科の中田照子教授に多大な指導をいただきました。ここで深く感謝の意を表します。